

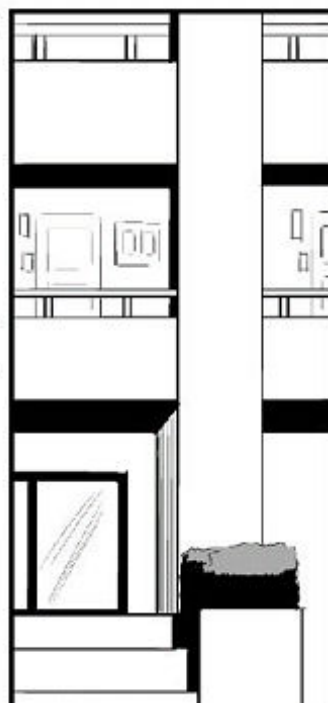
おっといっしょ

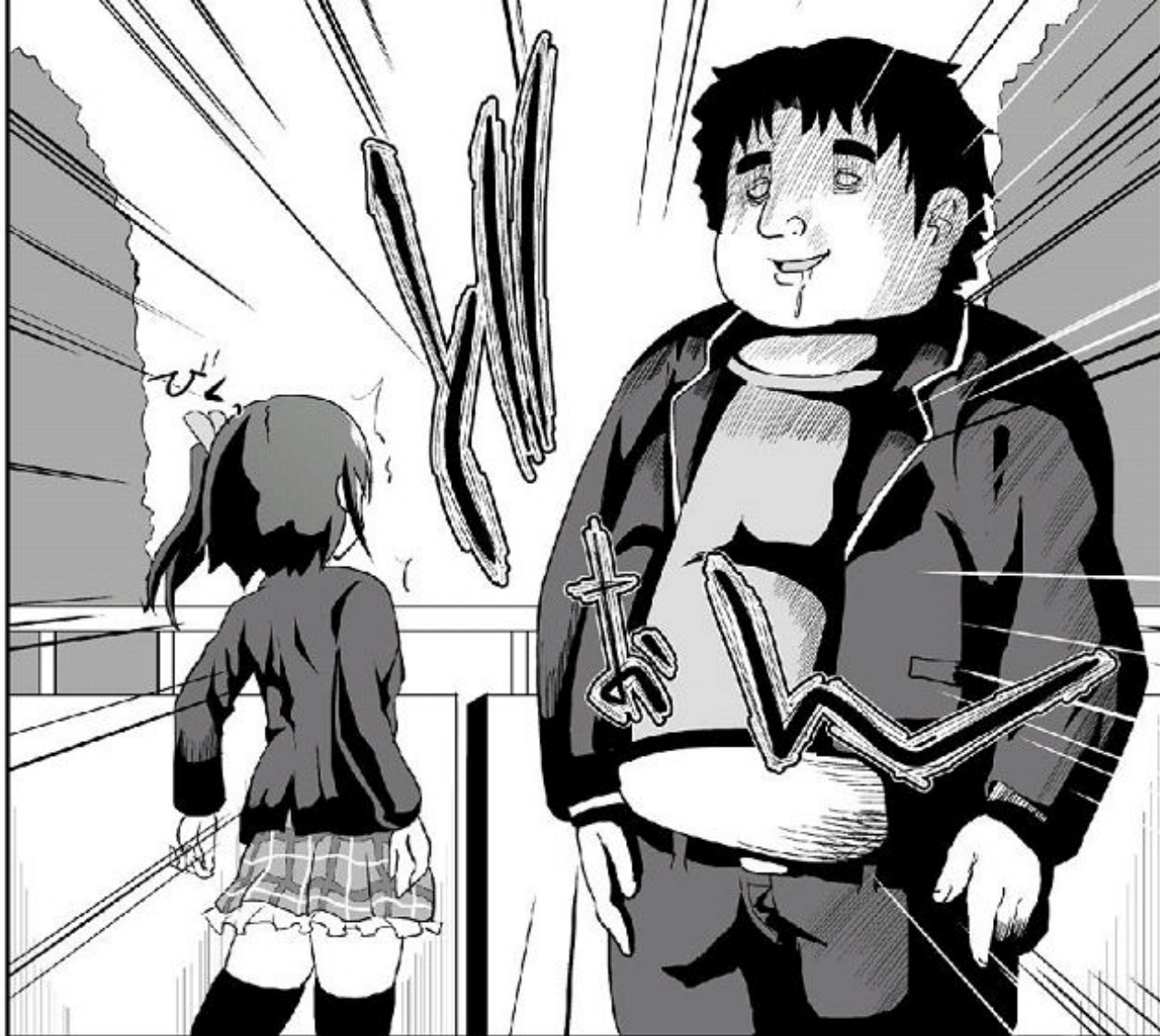


成年向

ずっといっしょ









離さないよ
邪王真眼の力を

は・離せ

かたハハ

ハハハ
ハハハ
ハハハ



なにを

そう！それだ！
真眼の使い手である
六花こそボクの
下僕に相応しい

見ていたよ
六花が暗黒の
炎の使い手と
契約していたのを

ハハ

ハハ

ハハ

ハハ

ハハ

ハハ



ボクとも
契約しろよ

ボクが主で
六花が下僕ね

断る！

ダメだめ
了承するしか
六花に道は
ないのだ

さあ
誓えよボクと
契約するって



いやあ

言うこと
聞かないと
おしおきだよ

そんなのダメ
だって六花が認め
ないと力半減って
設定なんだからさ

ほん
ほん
ほん

かた
かた

かた
かた





あははは
何? もう
中二キヤラ
おしまいなの?

する!
契約するから
もう叩かないで

おしり叩かれた
くらいで
痛がってるなんて
ガキと一緒だよ



今は昼
だから本気が
出ない

夜になったら

へえ
そうなんだ



なんだ
もう降参か
情けない

邪王真眼が
聞いて
飽きれる



ボクの聖王神亀は
夜でも昼でも力は
変わらない設定だよ

聖王神器？

な：何
なにを出して

何って？
こいつが
ボクの



聖王神亀

こいつで六花と
契約するんだ

そ・そんな
汚いモノで

いやよ
私は閻属性

聖なんて
受け入れない

逆らうの？

ならまた
聖打百叩
しちゃうよん

うぐう



しっかり手で
固定しなっ
て

六花の穢れマン
コには聖王神
器が入んない
よ

聖と閻
最初は反発し
て痛いだろう
けどポクの方
で六花の閻も
清浄してやる
よ

そうならば毎
日神亀をは
めて欲しく
て自分から腰
を振るよう
になるぞ

うくうう



はあはあ

ならない！
私は

なるのだ！

びくびく



聖王進撃陸破壊

あひい

いひい痛い!痛い!
抜いてえええ

ふふふ六花ちゃんの
マンコ小さくて狭くて
とってもいいよ



な!いやまさか

ちよっと
この体勢きつい
んだよね

ひう
動かないれよ

やあ

それえええ

ひうう奥入ってる
ズブズブ入って
きちやうううう

口では嫌がっても
六花のマンユは
真の主を求めて
ギョングンと
ボクの神器を
締め付けてる

違うそんなこと

早くボクの聖液
欲しいんだね

もう射精
しちゃいそう

イクよ

はうう

いやら
そんなの

べちゅう

あ

びく
びく

びく
びく





穢れた
六花マンコに
聖液を注ぎ
込んでるよお

ひやあら
抜いて! 中射し
やめれええ



聖液を注げば
注ぐほど
六花は強くなる
設定なんだから

もっと楽しんでよね

ボクたっぷり
貯めてるから
まだまだ射精
しちゃうよお

あひん
ぬいぞええ

中出し
いやああ



勇太に来て
欲しくなくて
そんな

ピョッ

ピョッ

うわっ
うわっ
うわっ

ピョッ

ピョッ

ん
ん
ん

うわっ
うわっ
うわっ

ドキ
ドキ
ドキ

わ：私
自分からキスを

ドキ
ドキ



そんなに
しかたなら

びく
びく

うわっ
うわっ
うわっ

ドキ

ドキ

絆が強まった
証のキスかな？

最高の
イベントじゃん

あ

あ





ご主人様もう
ひやめれええ
六花の中
もう聖液
注がにやいれ

はへえい
い

あー
あー
あー

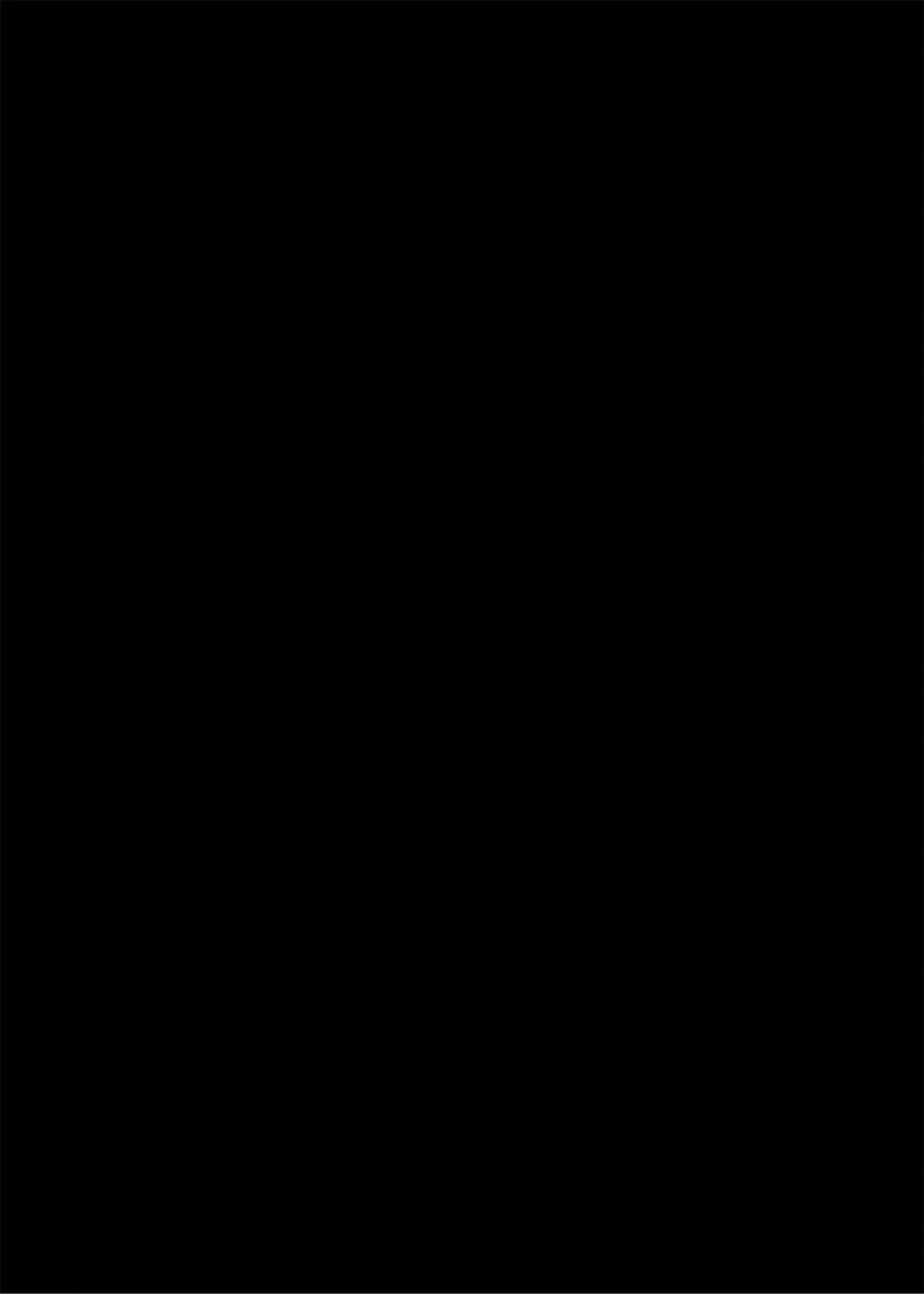
もうこいつに
逆らえない

こいつの下僕に
なっちゃやうよお



はへえい
い

あー
あー
あー



それから夜通しで私は
ご主人様に相応しい下僕に
なる訓練を受けた

ケツマン特訓で
アナルピーズを
詰め込む特訓

逆らうと聖打百叩か
聖液注入をされる



痛いのはやだ
中出しもいやだ

悔しいけど仕方ない
力さえ戻ってくれば
こんなオタクデブは
瞬殺できる

だからあきらめた
自分でケツ穴を広げて
詰められるの耐える

それまでの我慢だ

レギン



「ケツ穴にビーズ詰められるの
気持ちさらけしめろ」

「うふふふ
だいぶわかって
きたねええ」
ご主人様に
マンコ手で
ツツコグツツ
してもらえて
六花は幸せれしゅう



「これで最後の一個」
「だいぶケツ穴も
広がったね」
「はひいいご主人様」



「今夜はずっとこれを付けっぱなしだ」
「そしてたらボクの聖王神亀を今度はケツ穴に
ぶっさして直腸に聖液が送れるよおお」
「うれしいだろ？」

「はひいいい」

「え？どこに？」
「だってここだと本格的な
特訓ができないからね」
「うちに来るんだよ」
いやだ、いやだ
そんなのは絶対に
「また叩かれる？」
「い：行きましゆ」
デブは立ち上がった
私もそれに
続く
こんなデブ
私の
邪王真眼の力さえ
戻ればなんとでも
できるんだ
かさ：え

早朝の町を歩く

マンコにはパイプを刺され
ケツ穴にはアナルピストンを詰め込まれて

私が少しでも騒げば
デブはパイプの振動レベルを
最強にしてしまう

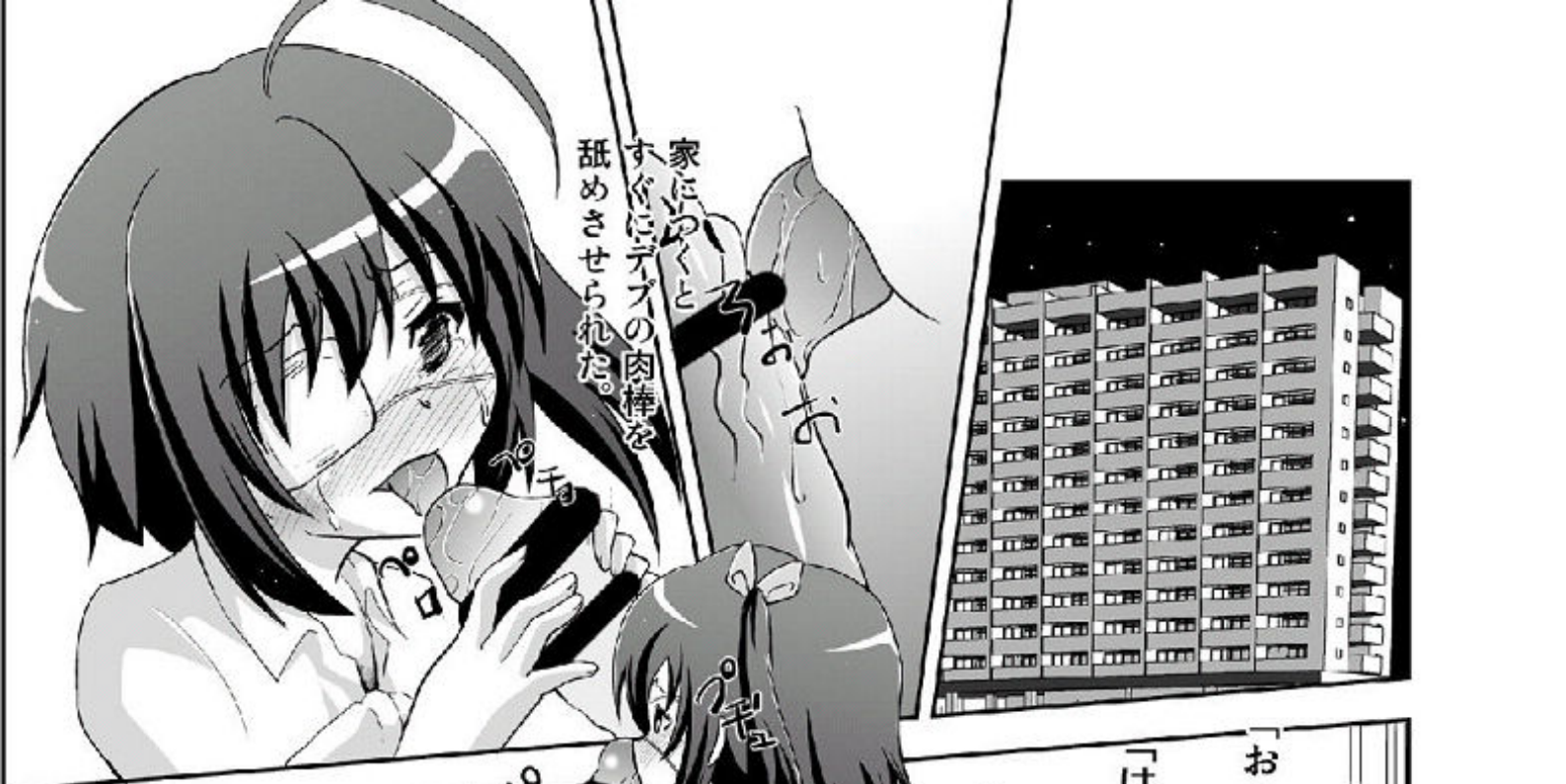
そうだったら私は路上で……

悶絶した拳句に潮を吹いて
おもらししてそれで、それで

だめだ！いやだ！
そんなのもう
生きていけない

人は少ないけど
みんな奇異な眼で
クネクネと歩く私を見る

襲ってくる快樂の波に
耐えながら
私は歩かされた



家にゆくと
すぐにデブの肉棒を
舐めさせられた。



「おいしいかい六花」
「はひい、おいしいねす」

まずい！キモい！
吐き捨てたいよお



「聖液はこぼさずに
全部飲み干すんだよ」

「はぶううう」

悔しい、悔しい
誰かお願い助けて

ゆ・勇太……





ふぎけんな
今夜これで
もう三回目だぞ
このしまりの
ないユルマンが



ごめんなしやい
もうしましえんから
許してええ

反省してるなら
態度で示せよ
このバカ下僕が



らってもう三日も
はめられれば
にやしれええ

どうした今度は
ケツ穴も緩いのか
ビーズが
抜けてきてるぞ



びび
びび
びび

びび
びび
びび

びび
びび
びび

びび
びび
びび

びび
びび
びび

びび
びび
びび

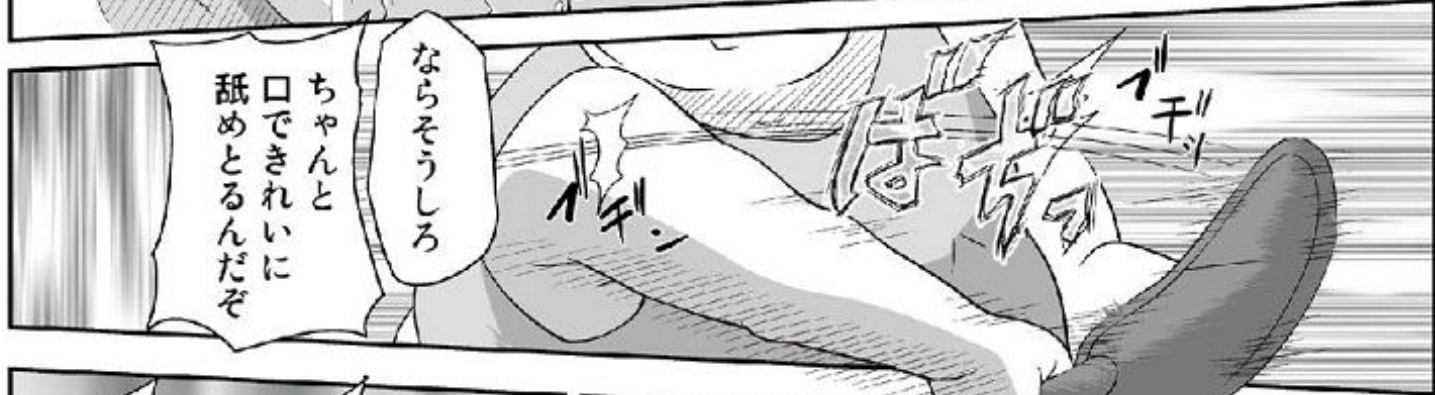
びび
びび
びび



掃除しましゅ
片しましゅから

どうして
くれんだよ

おいおい
どうすんだよ
これじゃあ今度は
臭くて
寝れないよ



ちゃんと
口できれいに
舐めとるんだぞ

ならそうしろ



設定なんだから
逆らうなよ

うるさい!

そ・そんな
舐めとるなんて
無理ですうう



お前から出たもんは
お前の中に戻すんだよ
でないとせつかくの力が
吸収できないでしょ?

って設定ね



お前が片してる
間はこっちの穴で
楽しませてもらうぜ

ケツ穴も
ちようどいいくらい
広がったし

ひびく
いやらあ



なんのために
三日もビーズを
詰めてた思ってたの？



無理、無理です
そんなおしりなんて



ひびく

グッ





あははは
本当にうんこ食ってる
邪王真眼のプライドは
どこいっちゃたの？



お掃除
完了しましたら

さすがは
ボクの下僕だね



我慢だ



耐えるんだ

力が戻るまで



パイプじや
寂しくて寝れないなら
ボクがずっと一緒に
いてあげるよ

ずっと
繋がればなした

あぐ

あぐうう

こゝこんにやの
寝れないよ

うひひひ

ひん

そうだ
忘れてた

あぶうううう

六花
お休みのキスだ

ちゅちゅちゅ

ちゅちゅ

ちゅちゅ

ちゅちゅ

ずっと一緒になら
もう寂しくないよ



印刷 太陽出版様
連絡先 akadamatenpo@yahoo.co.jp

[http://b.dlsite.net/
RG08665-kuroimono/](http://b.dlsite.net/RG08665-kuroimono/)

挨拶

こんにちは&はじめまして紅玉です。

このたびは『ずっといっしょ』を手にとって頂きありがとございました。

原作では、いまいちそのかわいさを発揮しできていなかった六花ちゃんでしたが、さすがは京アニです。もうその動き、演出、手の仕草とにか、アニメの六花ちゃんはかわいいです！もうでかい肉塊で包み込んでムギムギしてあげて、これをしてと妄想が膨らみます…。

さて私は原作を読んでいて、主人公にたいして「はぁ」と思うシーンが多々あったんですがその中でもダントツのベスト！が教師に向かって元気一杯の早退発言、それを許す教師「はぁ！」ふざくんな！

…でもとっても楽しい作品でした『中二病でも恋がしたい』

この一冊があなた様の一晩のお供になって貰えれば幸いです。ではではまたお目にかかれることを祈って。

[注意]

この物語はフィクションです。実在の人物・団体・事件とは一切関係ありません。本書籍は成人向けのため、18歳未満の方への配布はお断りさせていただきます。

また本作中で描かれる行為は、正しい性行為ではなく、犯罪です。絶対に真似しないで下さい。

この本を発行した事によって発生する全ての権利は放棄されておりませんので、スキャン画像の無断掲載や共有ファイルとしての利用行為はご遠慮下さい。

